

## Interview▶▶▶本間 哲夫院長

院長  
本間 哲夫氏

## 本間記念 東北整形外科 (宮城県仙台市)

院長の本間哲夫先生(写真)は、東北大学整形外科講師を経て、1993年12月までNTT東北病院整形外科部長として活躍された後、手術療法を中心とする「本間記念 東北整形外科」を設立した。開院当時は故 若松英吉先生(東北大学名誉教授)を名誉院長に迎え、医師3名による専門性の高い整形外科診療をスタートさせた。開院から16年余り過ぎた現在も、整形外科医5名と麻酔科医1名、さらに熟練した医療スタッフが卓越した専門医療を続けている。温かい人柄で患者さんやスタッフが厚い信頼を寄せる本間院長に、病院の特長や取り組みについてお話を伺った。

下肢領域に特化した「専門医療」と  
主治医制による「かかりつけ医療」の両立

当院では、膝・股関節疾患に特に力を入れて診療を行っています。

手術は膝・股関節疾患を中心に年間約900件行っております。人工膝関節置換術が年間約170件、膝前十字靭帯再建術が年間約150件で、膝蓋骨脱臼・半月板手術など膝に関する手術が全体の95%を超えます。手術件数は年々増加し、今では3ヵ月先まで予約待ちの状態です。

一方、下肢(股・膝・足)以外の手術は行っていません。脊椎や手など膝以外の疾患で受診する患者さんも多数いらっしゃいますが、手術の適応と考えられる患者さんは我々の知り得る人脈を生かし、市内・県内はもちろんのこと、全国のスペシャリストに紹介しています。「我々自身ができる最高の医療」ではなく、「患者さんにとっての最高の医療」を提供する担い手として、各分野の専門医と連携した医療を実践したいと考えているのです。また、救急医療も行っていません。市内近隣に、救急医療を得意とする医療機関が複数存在しているためです。

外来診療は主治医制とし、全経過を通して同じ医師が治療にあたるのを原則としています。数年経って他の部位の疾患で再受診された患者さんでも、可能な限り前回と同じ医師が担当するようにしています。気心の知れた同じ医師に診てもらえることが患者さんにとっては話しやすく安心できるようです。

このように、当院では専門的な医療を提供する一方で、大きな総合病院などでは難しい「ホームドクター」的な要素も合わせつつ医療機関を目指しています。これは、私の祖父・父・兄たちが個人の開業医で、親身になって患者さんの話を聞く医師の姿を子どものころから理想としてきたことによります。

また、当院では患者さんと医療スタッフの間が他人行儀にならないよう「患者様」ではなく「患者さん」と呼ぶよう徹底しています。「患者様」「〇〇様」などと呼ぶ医療機関も増えているようです。

が、私どもは「〇〇さん」と呼ばれたほうが、患者さんが打ち解けて親しく話をしてくれるように感じています。

プロスポーツチームの  
チームドクターとして地域に貢献

当院の2人の医師がサッカー部出身という縁もあって、仙台市に本拠地を置きJリーグに加盟しているプロサッカーチーム『ベガルタ仙台』のチームドクターを任されています。シーズン前には当院で選手全員のメディカルチェックを行い、ホーム・アウェイを問わず担当医が試合に帯同しています。

また、プロ野球チーム『東北楽天ゴールデンイーグルス』のチームドクターも務めています。

負傷したプロスポーツ選手が治療のため来院することが多いのですが、院内ではスター選手だからといって特別扱いしないようスタッフには徹底していますし、患者さんにも協力いただいて、選手たちが治療に専念できる環境を整えています。

## 下肢疾患に精通したパラメディカルスタッフ

当院では手術を下肢に限定しており、特に膝関節の手術が圧倒的に多いのが特徴です。そのため、看護師・リハビリテーションスタッフともに膝疾患の患者さんの病態や治療に習熟しており、各医師の治療方針もよく理解していますので、素晴らしい医療チームが形成されていると思っています。手術では、同一手術(例えば人工関節置換術)であっても、用いる手術器具には医師ごとに好みや癖があります。当院手術室の看護師は、医師によって異なる手術機械を誤りなく準備し、医師達が最高の手術を遂行できるよう気配りをしてくれます。

さらに、手術に際しては機械出しの看護師が各医師の手順を知ったうえで、阿吽の呼吸が必要とする機械を渡してくれます。

病棟の看護師は、下肢手術患者の看護をよく理解しており、術前後の指導・観察に万全な体制を心がけています。リハビリテーションスタッフは医師ごとの術後のリハビリプログラムを熟知したうえで、各々の患者さんに合った丁寧なリハ

ビリを提供してくれます。なお、スポーツ選手などの場合はスポーツジムのトレーナーが参加し、筋力トレーニングの指導を行うこともあります。

このようにパラメディカルスタッフが優れた力を発揮できるのは、やはり当院が下肢の治療に特化した医療機関だからだと思います。あえて狭い領域の治療に特化することにより、外来・手術室・病棟・リハビリのスタッフも、下肢疾患に対する深い理解と知識を得ることができるのだと思います。

また、医師らによる月2回のレクチャー(血栓症の予防・リハビリ指導の実際など)もスタッフのスキルアップに大いに役立っています。

エキスパートなスタッフとともに  
最高の医療を提供する

仙台市は東北大学のお膝元であり、市内には公立・私立ともに大きな総合病院が多く、整形外科領域でも脊椎・手・肩・外傷などの分野に優秀な専門医が集まっているという恵まれた医療環境にあるため、当院では我々の専門領域に集中することができます。当院には医師・看護師・リハビリスタッフ・その他医療スタッフのいずれも、膝・股疾患に関しては最高のメンバーが揃っていると自負しています。この素晴らしいスタッフとともに、これからも専門性を追求してスキルを磨き、患者さんにとって最良の医療を提供できるチームを目指したいと思っています。

## 当院の常勤医師

整形外科 杉田 健彦  
(前・仙台整形外科病院副院長)  
(元・東北大学整形外科助教授)

前田 郁雄  
(前・宮城社会保険病院整形外科部長)

佐々木 啓  
(前・東北厚生年金病院整形外科部長)

小暮 敦史  
(前・平鹿総合病院整形外科)

麻酔科 兼子 忠延  
(前・東北労災病院麻酔科部長)  
(元・東北大学麻酔科助教授)

本間記念  
東北整形外科(医療法人社団 杏泉堂)

仙台市北部に位置する「本間記念 東北整形外科」には、高度な下肢手術(特に人工関節・靭帯再建術)を求めて全国から患者が来院する。2006年9月には同院の隣に「本間記念 仙台北整形外科」を開院して外来診療を拡充するなど、地域医療へのさらなる貢献を目指す。

〒981-3121 宮城県仙台市泉区上谷刈4-9-22  
TEL:022-371-5511 <http://www.tohokuseikei.com/>



活気があり、明るいリハビリ室



佐々木 啓先生

杉田 健彦先生



小暮 敦史先生

前田 郁雄先生

兼子 忠延先生

